

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立福島小学校
校長氏名	中村祐佳子
作成日	令和 3年 2月 26日

1 教育目標

徳育・体育・知育の調和がとれ、豊かな感性と正しくたくましく生きぬく力をもった子どもを育てる。

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 県学習到達度調査で基本問題の正答数が県平均を上回る。 学校評価アンケート「わたしは毎日の勉強がわかる」で「とてもそう思う(よくわかる)」(児童90%) 	<ul style="list-style-type: none"> 「わたしは学校が楽しい」で「とてもそう思う(とても楽しい)」が(児童90%) 	<ul style="list-style-type: none"> 「今、休憩時間は外で元気に遊んでいる」で「あてはまる」(児童90%) 「生活リズムチェック」で「朝ごはんを食べた」(児童100%) 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、学校の教育目標や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」で「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」併せて(保護者90%) 地域の人材や資源を活用した取組を行った。(教員100%)
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◎言語活動・主体的な学習の充実 ◎授業研究の充実 ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳・人権教育の推進 ◎望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成 ◎いじめの未然防止、早期発見 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危機回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携充実 ◎地域の資源活用の推進 ◎保幼小の接続、中学校区における学校間連携の推進
取組の状況(D)	<ul style="list-style-type: none"> 「節目となる場面で「書く活動」を多く取り入れ、課題解決に向けて主体的に学習に取り組む姿勢を育てよう努めた。 学習活動全般に渡って、児童が自分の考えを積極的に伝え、ともに学び合う機会を多く取り入れるよう努めた。 全教員が年間1回の授業研究を行った。 家庭と連携しながら、自主学習ノートや「カルテック」を活用し家庭学習の定着に努めた。 「読書タイム」や「うちどく」の取組を通じて読書習慣の定着を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「道徳」の時間をはじめ、全教育活動を通じて道徳教育・人権教育をすすめた。 校外児童会や縦割り清掃等、異年齢で活動する機会を多く取り入れた。 「福島のみまり」等について全教職員で共通理解を図りながら、全員が同じ指導を行うよう心がけた。また、保護者へも指導内容を知らせ、家庭と連携を図りながら指導を行った。 「いじめアンケート」を年間に複数回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の授業の充実を図り、子供の運動能力・体力の向上に努めた。 機会あるごとに「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨した。 保健委員会が中心となって給食後の歯みがきを推進した。また養護教諭を中心に食育を進めた。 「避難訓練」を行い、危機回避能力を育成するよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学級だより、HP等様々な手段で、学校の教育活動や児童の様子を保護者や地域の方々に情報発信するよう努めた。 コロナ禍の影響で夏祭りや集会地域、行事が中止となった。ゲストティーチャー、図書ボランティア等の人材や、地域の自然・文化をの活用が難しくかった。 保幼小の接続、中学校区での小小、小中の連携を図るよう努めた。
取組の成果と課題(評価結果C)	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の本やパソコンを利用して調べ学習に取り組んだ。特に高学年は週1、2回はパソコン室を利用して学習した。 県学習到達度調査における基本問題の平均正答率が4年、5年とも県平均を下回った。 学校評価アンケート「わたしは毎日の勉強がわかる」で「とてもそう思う、そう思う」は、85.1%であった。 6月から2月末の図書カードに書かれている読書の冊数の平均は75冊、150冊以上読んだ児童は全体の17%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート「わたしは、学校が楽しい」で「とてもそう思う」「そう思う」併せて93.8%であった。 同アンケート(教職員)「いじめ・不登校・問題行動は把握し、解決へと努めている。」について「とてもそう思う」「そう思う」併せて93.3%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の授業の充実や、外遊びの推奨を図った。 「生活リズムチェック」の結果から、朝食抜きの児童や、給食後の歯磨きをしていない児童、また低学年でも寝るのが遅い児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート「学校は、学校の教育目標や子どもの様子を保護者にわかりやすく伝えている」で「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」併せて86.3%であった。 学校評価アンケート「保護者や地域の学校への理解や協力は得られているか」について「とてもそう思う」「そう思う」併せて94.2%であった。
改善方法(A)	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が、学力向上に向け全学年を通じた取り組みを進める。 家庭と連携して自主学習の定着を図る。 全学年を通じた取り組みを進め読書習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全体を通じた道徳教育、人権教育の取組を進める。 縦割り班活動の改善充実をさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びを推奨するとともに児童自らが体力づくりに取り組むよう啓発に努める。 家庭と連携して「早寝、早起き、朝ごはん」をすすめる。 地域とともに行う津波避難訓練の改善充実を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「きのくにコミュニティスクール」の取組を更に進める。 保幼小の接続、中学校区での小小、小中の連携協力をさらに進める。

3 その他の課題

・地域全体で地域の子どものことを育てるという意識を共有し、保護者地域の方々と連携・協働して「地域とともにある学校づくり」「課題解決に向けての取組」を効果的に進める。